

一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS) について

平成30年12月

大学スポーツ協会設立準備委員会事務局・スポーツ庁

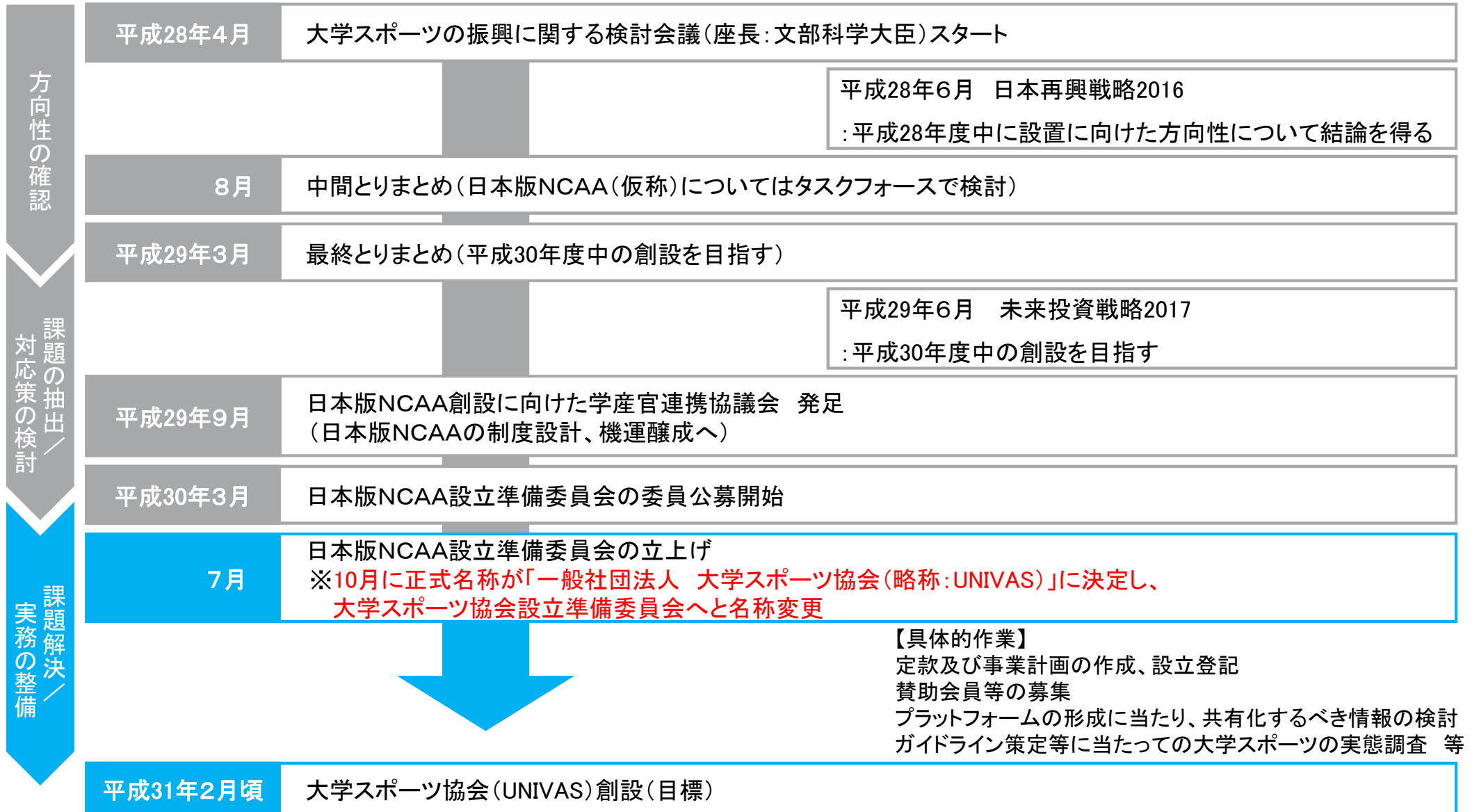


スポーツ庁

1. 大学スポーツ協会（UNIVAS）創設 に係る検討の経緯について

大学スポーツ協会（UNIVAS）創設に係る経緯

昨年度までの検討内容を受け、平成31年2月頃の組織設立に向けた具体的作業に取り掛かかっている。



<1> 大学スポーツの振興に向けた基本的考え方（方針）について

大学スポーツ振興の意義

- 大学におけるスポーツの振興には、国民の健康増進や地域・経済の活性化等に資する可能性を有するなど、公共的役割を担う可能性
- 大学には、アスリートや指導者等の貴重な人材、体育・スポーツ施設が存在

大学スポーツ資源の潜在力を発揮するための方向性

- スポーツの社会的効用を理解することは社会発展の促進に資することから、大学においてスポーツ分野を学ぶことが重要
- 大学や学生競技連盟を核とした大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA（仮称））の創設に向けた議論が必要

<2> 個別テーマの目標・達成に向けた取組について

1. 大学トップ層の理解の醸成

大学が部活動を含めて大学スポーツに関与することを推進するため、大学トップ層の理解の醸成を図ることが重要

2. スポーツマネジメント人材育成・部局の設置

各大学におけるスポーツ分野の取組を戦略的に推進するため、スポーツ分野を一体的に行う部局や当該部局を担う人材（大学スポーツ・アドミニストレーター）の配置を進めることが必要

3. 大学スポーツ振興の資金調達力の向上

する・観る・支えるの好循環を大学スポーツでも形成し、その振興のための資金調達力の向上が重要であり、民間資金等を活用した大学スポーツ施設の充実を図るほか、大学部活動の管理体制の明確化と会計等の透明性を確保することが重要

4. スポーツ教育・研究の充実や小学校・中学校・高等学校等への学生派遣

大学体育の充実と学生スポーツの環境の整備、スポーツ科学研究の促進と成果の社会還元、学校への学生派遣を推進することが必要。

5. 学生アスリートのデュアルキャリア支援

学業とスポーツを両立するための修学上の配慮をするとともに、キャリア形成支援を行うことが重要

6. スポーツボランティアの育成

大学におけるスポーツボランティアへの関心を一層高め、大学が組織的に学生の活動の機会を拡充することが必要

7. 大学スポーツ資源を活用した地域貢献・地域活性化

総合型地域スポーツクラブ等との連携や合宿等を活用したスポーツツーリズムの推進、スポーツ施設の開放を進めることが重要

<3> 大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA（仮称））の在り方

- 日本版NCAAの在り方について、検討会議の下にタスクフォースを設置し検討 ⇒ 概要は次頁

<4> 今後の進め方

- 「学産官連携協議会」を設置し、日本版NCAAの具体的な制度設計を進め、平成30年度中の日本版NCAAの創設を目指す。
- 関係者の意識の醸成や大学内の体制整備、大学間・学連間の連携、スポーツ団体との連携の強化を図る。

大学スポーツの振興に関する検討会議タスクフォース とりまとめ概要

～日本版NCAA（仮称）の創設に向けて～

現状・課題

- 社会的諸課題への解決を求められる大学において、人格の形成や地域コミュニティの形成等に寄与する大学における運動部活動等のスポーツに期待される役割は大きい。また、「観る」スポーツとしての可能性も高い。
 - 運動部活動は、学生を中心とする自主的・自律的な課外活動とされ、大学の広報等に寄与する一方、大学の関与は限定的な場合が多い。
 - 大学の競技団体（学連）は、競技・地域ごとの組織で、法人格を有しない組織も存在。
- ⇒ **学生アスリートの学業環境への支援、運動部局の運営**（指導者や資金の確保、責任体制、事故・事件時の対応）、**大学の教育・研究との連携、学連間の連携**等の課題が山積し、抜本的な改革が求められている。

大学スポーツ全体を総括し、その発展を戦略的に推進する組織が必要

日本版NCAA（仮称）の在り方

スポーツを通じた**学生の人格形成**を図るとともに、母校や地域の一体感を醸成し、**地域・経済の活性化や人材の輩出に貢献する**

- 理念**
- **学生アスリートの学業環境の充実**を図るとともに、学業とスポーツの両立を目指し、**大学スポーツの発展を実現する**
 - 事故防止など運動部活動の**安全性を向上**させ、本人や関係者にとって安心できるものとする
 - 我が国のスポーツの文化、歴史を尊重しつつ、大学、学連等が協調・連携するための**プラットフォームとしての役割**を担う
 - 「観る」スポーツとしての価値を高め、**収益を大学スポーツに還元する好循環**を創造し、我が国全体の**雇用の創出、経済成長につなげる**
 - 競技種目、大学の立地、性別、障害の有無などにより不利益を被ることがないように取り組む

【期待される役割】

- ① 学生アスリートの育成
（学業成績要件の統一、デュアルキャリア支援、インテグリティ教育等）
- ② 学生スポーツ環境の充実
（スポーツ活動への支援、保険制度の充実、不祥事・勧誘等に係るルール作り等）
- ③ 地域・社会・企業との連携
（地域貢献活動の総括、会計等のガイドライン整備・相談窓口、権利関係の調整等）

【組織体制】

- 民間の法人として設立し、民間資金による運営を基本とする。
- 原則大学、学連の自主参加（任意）とする。
- 大学、学連が加盟のメリットを実感できるものとする。
- 大学、学連等の従来の活動を阻害せず、調和のとれたものとする。
- 安定した収入源を得るため、様々な手法の開拓を図る。
- 当初は実行可能な分野、規模からスタートする。

★最終とりまとめ全体については、下記よりご覧いただけます。

http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/005_index/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/03/10/1383246_1_1.pdf

日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会について

日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会

- 大学、学生競技連盟、産業界等が連携して具体的制度設計を進め、平成30年度中の本版NCAAの創設を目指す。
- 個別の検討テーマについては、3つのワーキンググループを開催して議論を進める。

(1) 学業充実ワーキンググループ

【検討テーマ】

- ・学生アスリートへのスポーツと学業の両立の必要について
- ・学業とスポーツの両立のための仕組み作りについて
- ・キャリア形成支援について 等

(2) 安全安心ワーキンググループ

【検討テーマ】

- ・安全性の向上に向けた関係者それぞれの役割とガバナンスの整理
- ・安全性に関する最低限の担保
- ・安全安心プログラムの開発、提供、講習
- ・安心してスポーツに取り組むための指導者の育成や管理
- ・医療との連携の在り方 等

(3) マネジメントワーキンググループ

【検討テーマ】

- ・日本版NCAA（仮称）が担うべき役割について
- ・日本版NCAA（仮称）が提供するメリットの検討
- ・加盟要件の整理
- ・自立的組織とするための資金調達方法
- ・運営に必要な人員、組織 等

第1回協議会

【講演者】

- ・永田 恭介（筑波大学学長）
- ・鎌田 薫（早稲田大学総長）
- ・渡辺 夏彦（一般社団法人ユニサカ代表理事）
- ・鶴岡 秀樹（ミズノ株式会社常務執行役員）
- ・大知 久一（三井住友海上火災保険株式会社取締役常務執行役員）
- ・鈴木 大地（スポーツ庁長官）



第1回学産官連携協議会の開催
(平成29年9月28日)

大学スポーツ協会設立準備委員会名簿（平成30年12月6日時点）

< 大学 >

愛知大学	愛知学院大学	愛知東邦大学	青山学院大学	朝日大学	旭川医科大学	江戸川大学
追手門学院大学	桜美林大学	大分大学	大阪大学	大阪体育大学	神奈川大学	鹿屋体育大学
関西国際大学	関西大学	神田外語大学	関東学院大学	九州大学	九州共立大学	近畿大学
熊本学園大学	甲南大学	国際武道大学	国土舘大学	札幌国際大学	至学館大学	静岡産業大学
至誠館大学	首都大学東京	順天堂大学	城西大学	城西国際大学	尚美学園大学	星城大学
清和大学	仙台大学	創価大学	大東文化大学	高松大学	拓殖大学	玉川大学
千葉大学	中央大学	中京大学	筑波大学	帝京大学	帝京科学大学	帝京平成大学
帝塚山大学	電気通信大学	天理大学	東海大学	東海学園大学	東京大学	東京学芸大学
東京海洋大学	東京国際大学	東北大学	東北福祉大学	東洋大学	常磐大学	常磐会学園大学
長崎国際大学	新潟大学	新潟医療福祉大学	新潟経営大学	日本体育大学	日本ウェルネススポーツ大学	
日本経済大学	日本福祉大学	日本薬科大学	羽衣国際大学	姫路日ノ本短期大学		
びわこ成蹊スポーツ大学		福岡大学	福井工業大学	福岡教育大学	富士大学	平成国際大学
法政大学	北翔大学	北陸大学	宮崎大学	武庫川女子大学	武蔵丘短期大学	明海大学
明治大学	明治国際医療大学	桃山学院大学	山形大学	山梨学院大学	立教大学	立命館大学
龍谷大学・龍谷大学短期大学部		流通経済大学	早稲田大学			

計 97大学

< 競技団体 >

全日本学生アーチェリー連盟	全日本学生カヌー連盟	全日本学生柔道連盟
全日本学生スキー連盟	全日本学生体操連盟	全日本学生テニス連盟
全日本学生レスリング連盟	全日本大学サッカー連盟	全日本大学ソフトボール連盟
全日本大学バスケットボール連盟	全日本大学バレーボール連盟	全日本大学野球連盟
日本学生航空連盟	日本学生ゴルフ連盟	日本学生サーフィン連盟
日本学生ソフトテニス連盟	日本学生氷上競技連盟	日本学生ホッケー連盟
日本学生陸上競技連合	日本水泳連盟	日本スポーツチャンバラ協会
日本馬術連盟	日本ハンドボール協会	日本フライングディスク協会
日本ボート協会	日本ラグビーフットボール協会	

計 26団体

学業充実分野では、入学前から在学中、卒業後のキャリア支援まで一貫通貫で整備すべき内容を検討していきます。

No.	テーマ名	検討内容
1	入学前からの動機付け	• 優良事例調査などを通じて、入学前から学業に注力する動機付けを検討
2	学習機会確保	• 試合日程や会場の調整方法の現況調査等を通じて、学業と競技の両立方法を検討
3	成績管理・対策、さらなる動機付け	• 学業と競技の両立のため、学生アスリートの成績調査などを通じて、学業基準の導入是非などを検討
4	キャリア支援	• 学生アスリートの就職支援体制の調査などを通じて、どのような就職支援を行っていくべきか支援プログラムなどを検討

安全安心・医科学分野では、事故情報の集約や安全ガイドラインの整備からガバナンス体制構築、指導者研修など、幅広い範囲に取り組んでいきます。

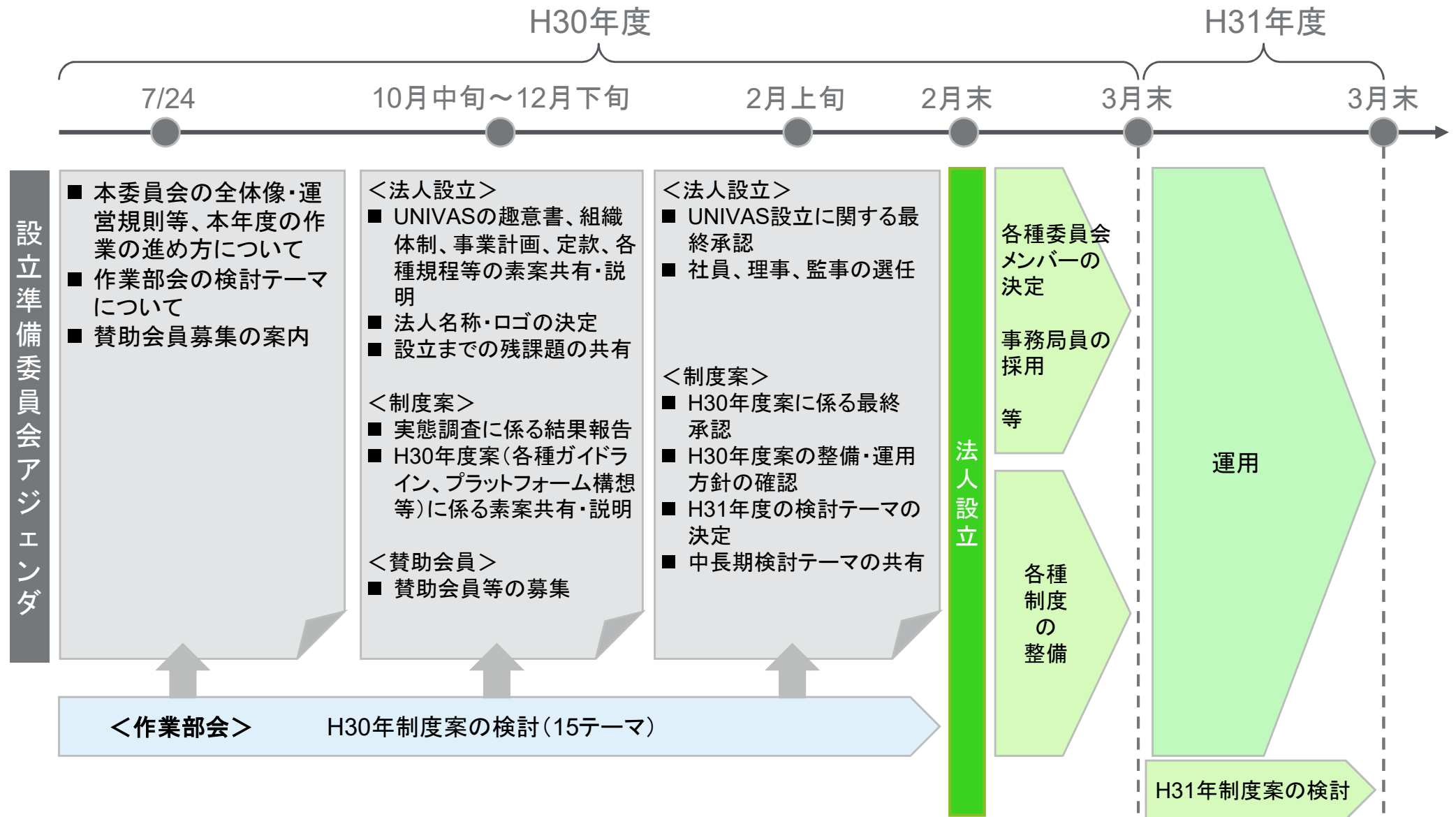
No.	テーマ名	検討内容
5	事故情報の集約化	<ul style="list-style-type: none">報告対象とすべき事故情報の範囲や報告内容、報告の経路を検討保険の現状を調査・分析し、加入状況の改善や補償範囲の充実のための対策や制度を検討
6	共通ルールの設定	<ul style="list-style-type: none">公官庁やスポーツ・競技団体で作成しているガイドラインを収集・分析し、競技横断的なガイドラインとして作成すべき内容を検討
7	ガバナンス体制の構築、ハラスメントや暴力等に関する相談・対応体制の構築	<ul style="list-style-type: none">UNIVASとして設置する相談窓口の運営体制や、各大学や学連の既存の窓口との連携や問題解決プロセス等を検討コンプライアンスに関するガイドラインを広く収集・分析し、UNIVASに加盟する団体が遵守すべき内容を検討
8	指導者研修	<ul style="list-style-type: none">UNIVASの加盟者を対象とした指導者研修のプログラム、および安全対策を軸とした情報収集・情報共有の仕組みづくりを検討

事業・マーケティング分野では、法人設立に向けた組織整備を進めつつ、UNIVASが事業として収益を上げられるようプラットフォームや広報・スポンサープログラムの策定を検討していきます。

No.	テーマ名	検討内容
9	大会レギュレーションの整備	<ul style="list-style-type: none"> 現在の大会開催状況の調査などを通じて、大学スポーツを活性化に向けて、競技横断的の大学対抗戦等を実施するためにはどのような調整や規定等の整備が必要となるかを検討
10	個別データの管理・活用	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報管理体制や各種権利等の管理状況の調査を通じて、データベースによる情報一元管理やデータ・権利の活用方法等を検討
11	シェアードサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> 映像配信プラットフォームやチケット・グッズ販売サイトの整備に必要な要件等を検討
12	大学SA支援、マーケティング・会計ルールに関するガイドライン整備	<ul style="list-style-type: none"> 各大学の現況調査等を通じて、SAを有効に機能させる方法やマーケティング・会計のあるべき姿を検討
13	広報戦略の策定・展開	<ul style="list-style-type: none"> UNIVASの情報発信に向けて、ホームページの整備やロゴの選定、広報戦略を検討
14	スポンサープログラム及び賛助制度の策定	<ul style="list-style-type: none"> スポンサーや賛助会員の獲得に向けた、プログラム策定や候補先を検討
15	組織整備	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度中に法人を設立するために、組織体制や定款等の必須項目の内容を検討

大学スポーツ協会設立準備委員会 今後の進め方

随時準備委員会を開催し、各テーマの検討内容の中間報告、法人設立に向けた各種事項の承認を予定。






スポーツ庁

2. UNIVASの設立理念

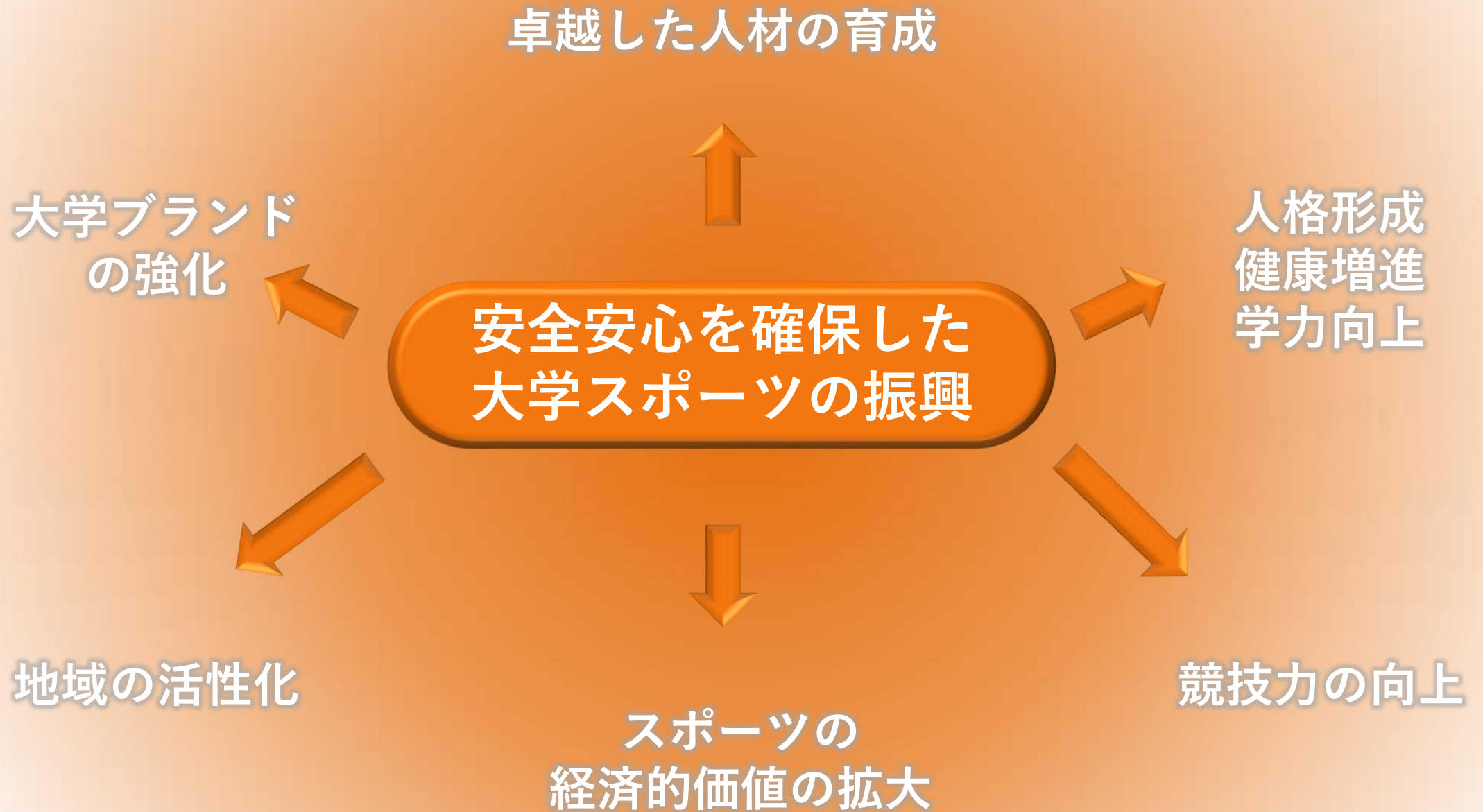
設立理念



大学スポーツの振興により、
「卓越性を有する人材」を育成し、
大学ブランドの強化及び競技力の向上を図る。
もって、我が国の地域・経済・社会の
更なる発展に貢献する。

「卓越性を有する人材」…知・徳・体（生きる力）を備えた、身体面・精神面と学業面で優れた人材。

社会的意義



UNIVASの役割

新しいサービスの提供（イメージ）

学業充実

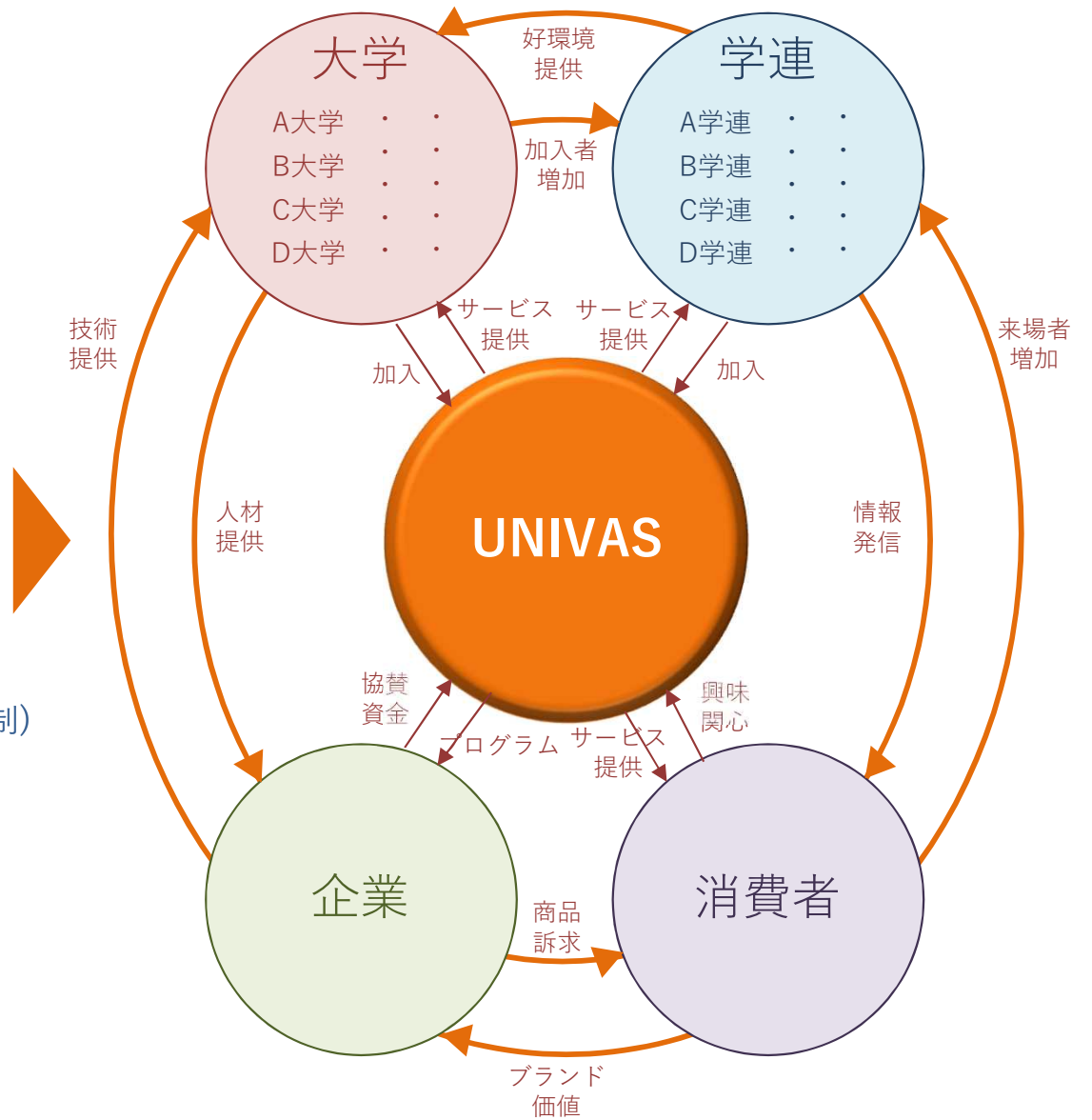
- 学業基準の策定・普及
- e-learningプログラムの策定・普及
- キャリア形成支援プログラムの策定・普及
- 学業優秀者表彰の創設
- 学生アスリート向け奨学金制度の創設

安全安心

- 安全・安心ガイドラインの策定・普及
- 相談窓口の設置
- スポーツ医科学の研究
- データベースセンターの構築
- 保険加入支援キャンペーンの実施
- コンプライアンス・ガイドラインの策定・普及
- 学生アスリート健康状態調査と結果公表
- 指導者への各種研修の実施

事業マーケティング

- 競技横断的の大学対抗戦の開催(既存の大会を前提としたポイント制)
- 地域ブロックにおける大会運営への助成
- 競技日程・競技映像のインターネット配信
- 大学におけるアスレチックデパートメント設置やスポーツアドミニストレーター配置に係るガイドライン策定
- スポーツ優秀者表彰の創設
- 競技力向上のための助成金制度の創設
- 会計管理に係る先行事例集の作成
- ビッグデータを活用したサービス開発・提供
- 国際競技大会の開催



UNIVASが、大学、学連と密に連携し、企業や消費者との核となり繋ぐことで、**好循環サイクルを実現**



スポーツ庁

3. 発足当初からUNIVASが 提供に取り組む事業（予定）

発足当初からUNIVASが提供に取り組む事業概要（予定）

学業充実

- 「学修機会確保に関する優秀取組賞」等の表彰を実施します。
- 入学前教育の推奨プログラムの提示するとともに、各大学におけるプログラム策定を支援します。
- 学事日程や大会日程を集約したUNIVASカレンダーを策定します。
- 学業基準の導入可能性を検討するための実証事業を行います。

安全安心

- 暴力・体罰、ハラスメント等に関する相談窓口をUNIVASに設置し、事案の解決に協力します。
- 指導者の意識向上のための指導者研修を各地域で実施します。
- 全国で開催されている大会に医師等を派遣（約400日相当）します。
- 全ての競技に共通する安全・安心のルールをガイドラインとして策定・普及します。

事業マーケティング

- UNIVAS公式サイトにおいて、地区大会も含めた約600試合の映像配信を行います。
- ポイント制を用いた競技横断的の大学対抗戦を開催します。
- 地区大会における大会運営への助成を行います。
- 「スポーツマンシップ賞」、「スポーツ統括部局/SA賞」等の表彰を実施します。
- 大学における学内整備のための手引書を策定します。

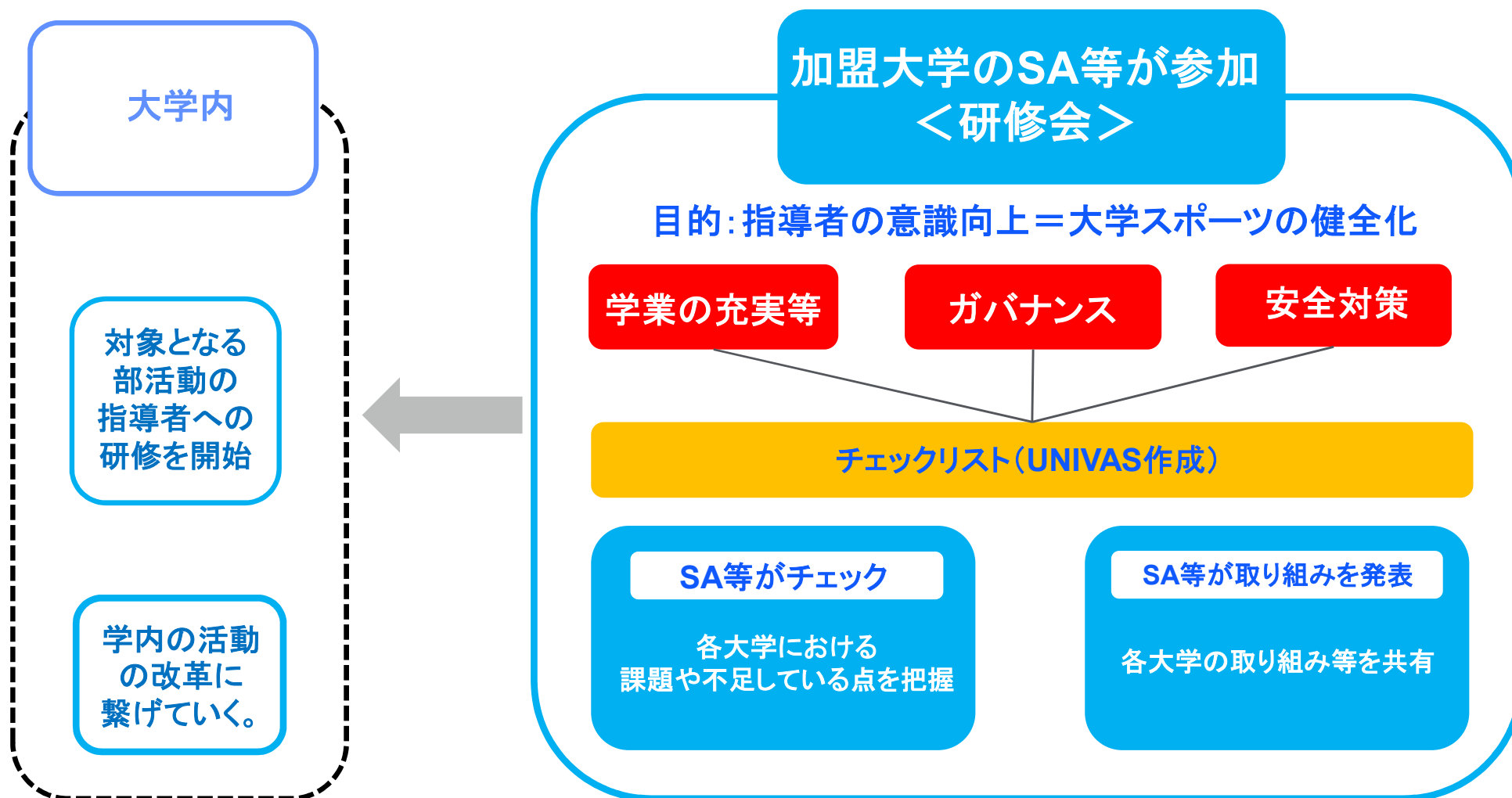
- 運動部学生への勉学・学修への動機付けのため、UNIVASが表彰制度を実施します。

設立当初から実施する表彰項目(案)

#	表彰項目案	内容	表彰対象者	理念との関連
1	学修機会確保に関する優秀取組賞 (Academic Opportunity Award)	学修機会の確保に関する先進的取組事例を表彰	大学(統括部局)・ 指導者・競技団体	学修機会確保
2	学業・スポーツ両立学生賞 (Best Scholar-Athlete Award)	文武両道を実践する模範となる運動部学生を表彰 (競技成績上位+GPAや履修単位数の基準)	学生個人	成績管理・対策 動機付け
3	成績管理・対策に関する優秀取組賞 (Academic Support Award)	成績管理・対策に関する先進的取組事例を表彰	大学(統括部局)	〃
4	OB・OG賞 (Great Alumni Award)	社会で現役運動部学生の模範となるようなキャリアを形成しているOB・OGを表彰	OB・OG	キャリア支援
5	安全確保に関する優秀取組賞 (Safety Award)	安全対策に関する先進的取組事例を表彰	大学(統括部局)・ 指導者・競技団体	競技の安全性保障
6	指導者賞 (Best Coaches Award)	人材育成や競技力向上の面で優れた取組みや実績を残した指導者を表彰	指導者	人材育成 競技力向上
7	スポーツマンシップ賞 (Sportsmanship Award)	スポーツマンシップあふれる模範となるプレー・取組みを表彰	運動部・ 学生個人	スポーツマンシップ 浸透
8	競技横断的大学対抗戦表彰 (College of the Year)	競技横断的大学対抗戦における年間総合ポイント上位の大学を表彰	大学	大会・競技活性化 競技力向上
9	優秀選手・チーム賞 (Sportsperson of the Year)	年間通じて卓越した競技成績を残した運動部および運動部学生個人を表彰	運動部・ 学生個人	大会・競技活性化 競技力向上
10	大会プロモーションに関する優秀取組賞 (Best Promotion Award/Best Idea Award)	大会・競技の普及や活性化、集客・応援促進のための大会プロモーションに関する優良取組事例を表彰	競技団体・大学(統括部局)・運動部	大会・競技活性化 競技力向上
11	スポーツ統括部局/SA賞 (Athletic Department Award /Contribution Award)	地域・社会貢献活動、会計の透明性確保、スポンサーとの連携、試合情報の管理・発信、キャリア支援等大学スポーツ振興に向けた各種の優良取組事例を表彰	大学(AD局) SA個人	ガバナンス強化 コミュニティ活性化 地域・社会貢献

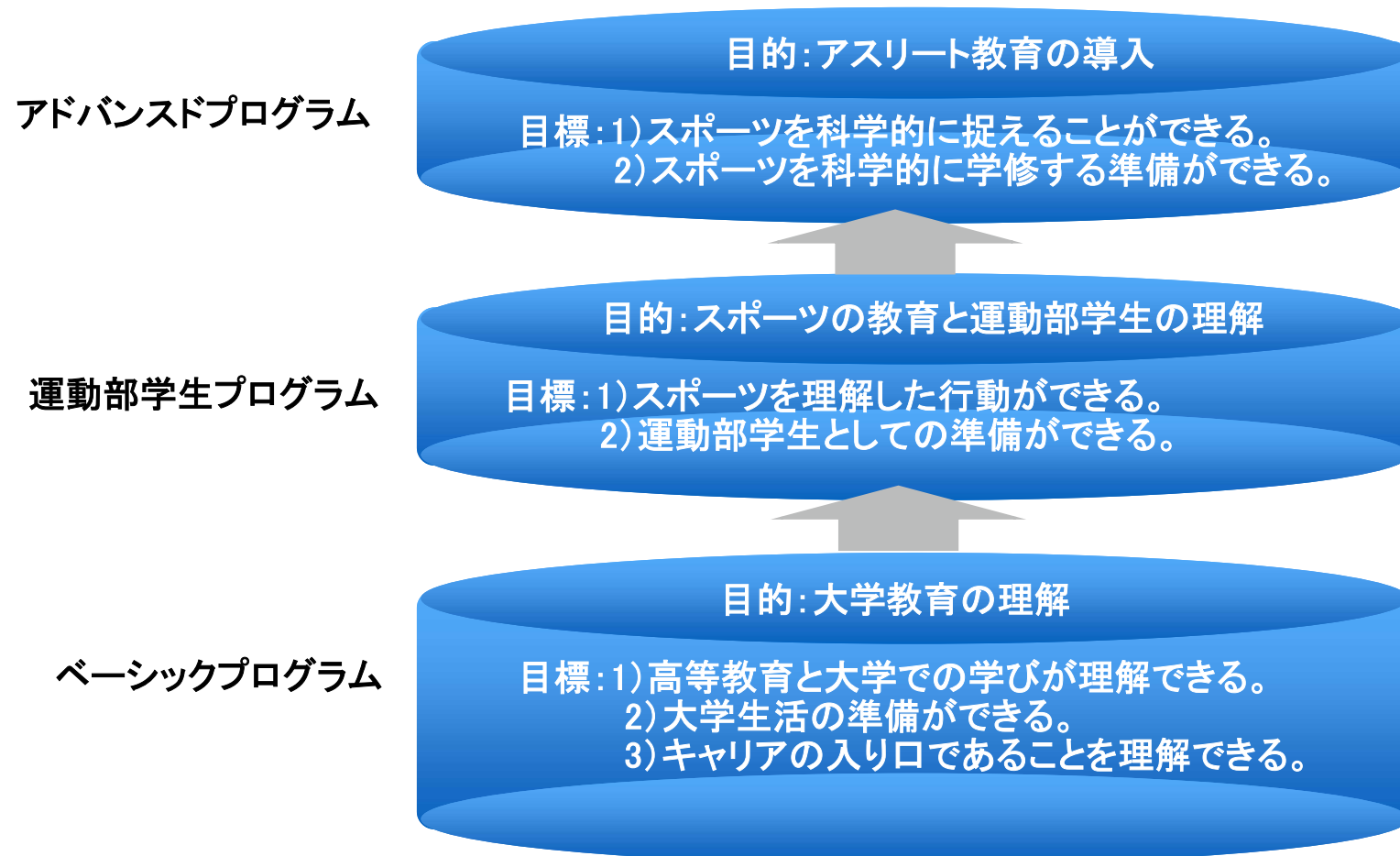
※SA:スポーツアドミニストレーター

- UNIVASが、大学スポーツの現代的課題への意識向上に資する研修会を実施します。
- 研修会では、指導者の意識向上のために行うべき取組について協議し、また、学内の課題を確認するためのチェックリストによる自己点検を行うことで、指導者の質の向上に寄与します。



- UNIVASは、入学前教育のステージに合わせた教育プログラムのひな形を提供します。
- 各大学において入学前教育プログラムを策定する際に、策定の支援をします。

UNIVASが考える入学前教育(案)



- 大会日程を確認できるカレンダーを公表し、学事日程を競技団体と共有します。
- 将来的に、学生が抱える「欠席による学業への不安」を軽減することに寄与します。

UNIVASカレンダー(イメージ)

Filters Applied: Submit Content | Media Center | ICAA.COM

NCAA All Season: [About Us](#) [Student-Athletes](#) [Division I](#) [Division II](#) [Division III](#) [My Apps](#)

Championship Event	Date	Facility	City	State
2018-19 DII Men's Lacrosse Semi-Finals	05/19/2018-05/19/2018	(TBD - 2 sites)	(TBD)	(TBD)
2018-19 DII Baseball Super Regionals	05/24/2018-05/25/2018	(TBD - 8 sites)	(TBD)	(TBD)
2018-19 DII Baseball Super Regionals	05/25/2018-05/26/2018	Lincoln Financial Field	Philadelphia	PA
2018-19 DII Women's Soccer Automatic Qualifier Date	11/04/2018-11/04/2018	(N/A)	(N/A)	(N/A)
2018-19 DIII Women's Volleyball Automatic Qualifier Date	11/04/2018-11/04/2018	(N/A)	(N/A)	(N/A)
2018-19 DI Women's Soccer Automatic Qualifier Date	11/04/2018-11/04/2018	(N/A)	(N/A)	(N/A)
2018-19 DI Field Hockey Automatic Qualifier Date	11/04/2018-11/04/2018	(N/A)	(N/A)	(N/A)
2018-19 DIII Women's Soccer Automatic Qualifier Date	11/04/2018-11/04/2018	(N/A)	(N/A)	(N/A)
2018-19 DI Field Hockey Selection Date	11/04/2018-11/04/2018	(N/A)	(N/A)	(N/A)
2018-19 DIII Field Hockey Automatic Qualifier Date	11/04/2018-11/04/2018	(N/A)	(N/A)	(N/A)
2018-19 DIII Men's Soccer Automatic Qualifier Date	11/04/2018-11/04/2018	(N/A)	(N/A)	(N/A)
2018-19 DII Men's Soccer Automatic Qualifier Date	11/04/2018-11/04/2018	(N/A)	(N/A)	(N/A)
2018-19 DIII Field Hockey Selection Date	11/04/2018-11/04/2018	(N/A)	(N/A)	(N/A)
2018-19 DI Women's Soccer Selection Date	11/05/2018-11/05/2018	(N/A)	(N/A)	(N/A)
2018-19 DIII Men's Soccer Selection Date	11/05/2018-	(N/A)	(N/A)	(N/A)

米国NCAAのWebスケジュール検索画面

大会日程を集約した紙面版・WEB版のカレンダーを作成し、いつでも会員が検索できるようにします。



- 学業とスポーツに励む卓越した人材を輩出するため、学生アスリートが習得すべき学業の基準を提案します。
- 詳細な制度設計については、実証事業で可能性を検討します。

2019年4月～

2022年4月～

2019年度については、限定した数大学のみで実証実験

学業基準設定のための
実証事業

学業基準に基づく出場制限の実施
及びこれに伴う体制構築
(情報提供、意思決定プロセスの整備)

2022年3月までは、実証期間として
加盟大学・競技団体の協力を得ながら
基準案や運用規程を定めます。

SAMPLE

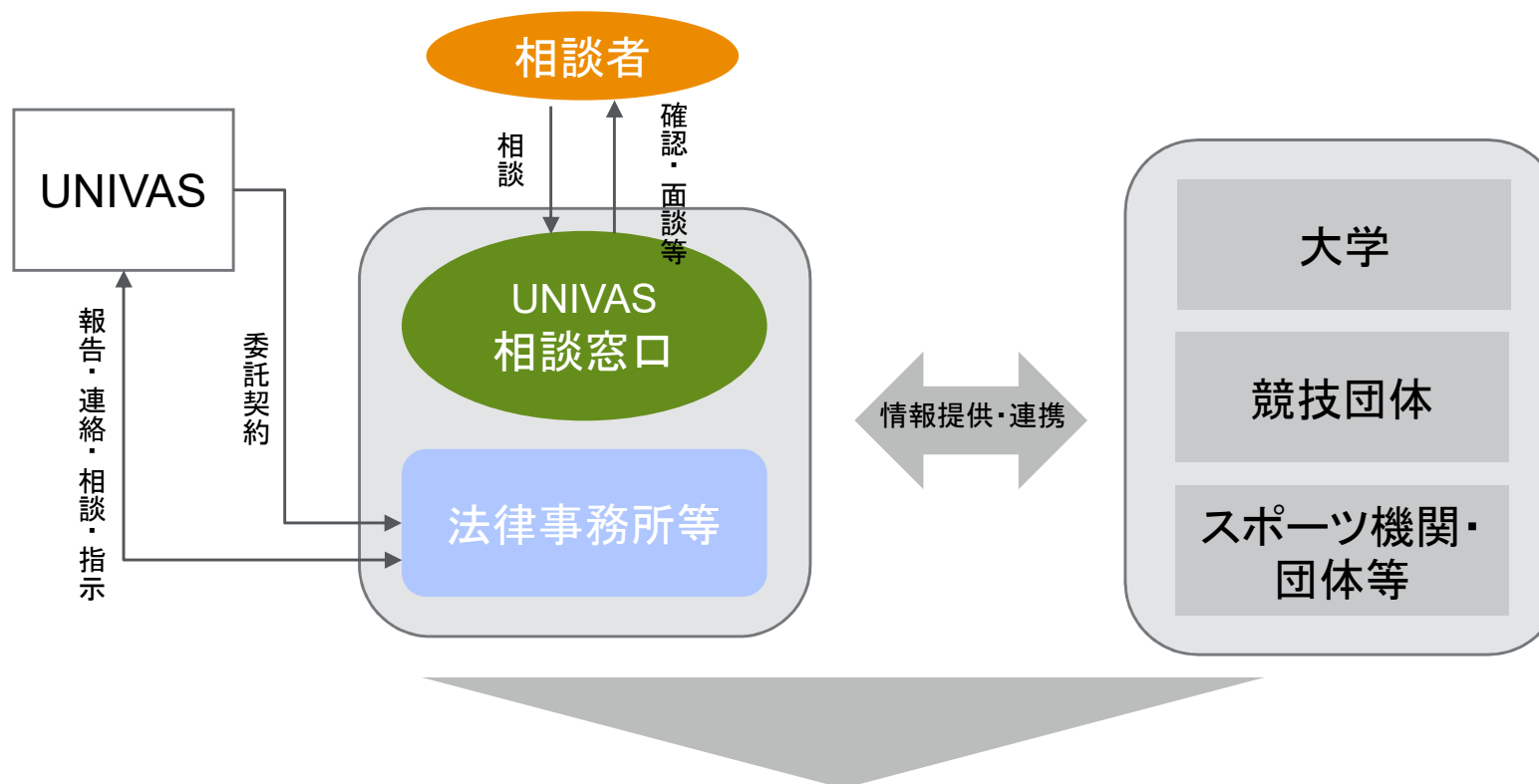
<成績基準案>

	取得すべき 単位数 (基準)	勧告対象となる 取得単位数	出場停止となる 取得単位数
2年開始時	25単位	24~20単位	19単位以下
3年開始時	60単位	59~50単位	49単位以下
4年開始時	90単位	89~80単位	79単位以下

- ・相談窓口の設置により、パワハラ等の問題事案の迅速な解決を図ります。
- ・UNIVASは、加盟大学・加盟競技団体と連携・協力しつつ、事実確認、問題解決等に当たります。

UNIVASにおける相談窓口のフロー図(イメージ)

* 個人情報保護に配慮しながら、迅速・的確な問題解決への支援を行なうため、大学等と連携



UNIVAS、加盟団体、法律事務所等が協力して問題を解決

- 全ての競技に共通する安全・安心のガイドラインを策定することで、安心して、安全な大学スポーツを確保するために必要な知識を共有します。

UNIVASが考える安全安心ガイドライン(案)

SAMPLE

区分	項目
1. 全般事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインの位置付け ・組織体制 ・重大事故の要因と発生のメカニズム ・指導者の責任と安全配慮義務 ・安全安心のための体制確保
2. 個別事項	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部(予防策と事後の対処) ・頸部(予防策と事後の対処) ・熱中症(予防策と事後の対処) ・心疾患(予防策と事後の対処)
3. 装具	<ul style="list-style-type: none"> ・装備品の効用と適切な使用 ・ヘルメット、ヘッドガード ・マウスガード
4. 施設、設備、環境の安全点検	<ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備の安全点検 ・医療機関との連携 ・適切な連絡経路の確保 ・AEDの設置 ・WBGTの設置

- UNIVAS公式サイトにおいて、地区大会も含めた約600試合のライブ配信や、企画動画コンテンツの配信を行います。
- 競技のインターネット配信を通じて、大学や競技の知名度を上げることができます。

配信コンテンツ(案)

ライブ配信(試合映像)

各競技の試合のライブ配信を実施。**年間600試合程度**の試合映像を制作配信

企画動画コンテンツ(密着ドキュメンタリーなど)

各大学の注目アスリートの密着ドキュメンタリーなど、企画動画コンテンツを制作配信

<PC画面イメージ>



<スマホブラウザイメージ>



※画面はあくまでイメージです。

※試合のライブ配信については、UNIVAS公式ホームページだけでなく、学生スポーツに実績のあるSPORTSBULL他、優良スポーツ関連サイトでも配信していく予定。

- 各競技団体で開催されている既存の大会の枠組はそのままに、競技成績に応じたポイントを付与することで、競技横断的な大学対抗戦を実施します。
- 大学のブランディング、既存大会の注目による競技の普及などの効果も期待できます。

競技横断的の大学対抗戦の開催イメージ

	順位	年間総合ポイント	競技a	競技b	競技c	競技d
A大学 	1	XXX pt	XXX pt	XXX pt	XXX pt	XXX pt		
B大学	2	XXX pt	XXX pt	XXX pt	XXX pt	XXX pt		
C大学	3	XXX pt	XXX pt	XXX pt	XXX pt	XXX pt		
D大学	4	XXX pt	XXX pt	XXX pt	XXX pt	XXX pt		
E大学	5	XXX pt	XXX pt	XXX pt	XXX pt	XXX pt		
...								
...								

年間総合ポイントでランキング

- 総合的なスポーツ力を評価
- 国立・私立等の形態や学生・競技部数等など複数のカテゴリーによるランキングも検討

競技毎に競技成績に応じてポイントを付与

- 競技横断的であるため、学生に対し自らが所属する競技部以外の競技に対しても関心を喚起

- 大学におけるアスレチックデパートメント(AD)設置やスポーツアドミニストレーター配置に係る手引書を策定します。
- 各大学内で実施すべき事柄や備えるべき機能が明確になり、大学スポーツの推進に向けた体制の構築が促進されます。

学内整備のための手引書(案)

SAMPLE

第1章 AD局の必要性

1. AD局とは
2. AD局設置による効果

第2章 AD局の役割

1. 学内スポーツのガバナンス
2. 学業の充実
3. 安全・安心な環境の整備
4. 事業・マーケティング

第3章 AD局の組織整備

1. AD局の設置
2. SAの配置

加盟大学・加盟競技団体が2019年度より実施する事項

事務手続

- UNIVASと情報等をやりとりする窓口の設置

情報提供に関する依頼事項

- 表彰及び競技横断的の大学対抗戦に関する情報（競技成績・競技者数等）の共有
- 大会日程及び学事日程（授業期間及び試験期間等）にかかる情報共有

現状把握に関する依頼事項

- 運動部学生及び指導者の実態把握及び名簿作成



ルールの遵守・策定に関する依頼事項

- UNIVAS安全安心ガイドラインの遵守
- UNIVAS研修会（指導者向け等）への参加
- UNIVASに届いた相談事項の解決に向けた協力

UNIVASの将来像（目標）

2019年春に新組織を立ち上げ、
2025年には運動部を持つ大学の全てが理念に賛同・参画する
組織にしたい。

	2019年	2022年	2025年 ¹
1.大学数	200大学 ²	300大学	400大学 ³
2.競技団体数	20団体 ⁴	40団体	60団体 ⁵
3.学生アスリート数	10万人 ⁶	15万人 ⁶	20万人 ⁶
4.総収入	20億円 ⁷	35億円	50億円 ⁸
5.職員数	10名 ⁹	20名	30名

- < 1 > 政府は2025年までに、スポーツ市場を15兆円にすることを目指している（「日本再興戦略2016」）
- < 2 > 平成30年大学スポーツの振興に関するアンケートにおいて新法人が設立した場合に加盟意思があったとした大学は202大学
- < 3 > 全日本大学野球連盟加盟大学数は381大学、全日本大学サッカー連盟加盟大学数は359大学
- < 4 > 平成30年大学スポーツの振興に関するアンケートにおいて新法人が設立した場合に加盟意思があったとした競技団体は18団体
- < 5 > 日本スポーツ協会の加盟団体数は63団体（準加盟含む）、日本オリンピック委員会の加盟団体数は61団体（準加盟含む）
- < 6 > スポーツ庁委託事業者（デロイトトーマツコンサルティング合同会社）による試算
- < 7 > 中央競技団体の収入平均値の2倍（笹川スポーツ財団作成2016年度調査報告書参照）
- < 8 > 日本スポーツ協会平成30年度予算は約41億円。なお、収入トップのサッカー協会は240億円、2位のラグビー協会は40億円
- < 9 > 中央競技団体の正規雇用者平均値の2倍（笹川スポーツ財団作成2016年度調査報告書参照）